◆学会発表◆

（*は、財団研究員）

日本老年社会科学会第64回大会（2022/7/2-3：東京都）

①澤岡詩野*「コロナ禍に『メール、電話、オンラインでの連絡が増えた』高齢者の特徴」

・高齢者のコロナ禍の交流について検討した。対面で会う機会の減少をメールやオンラインなどで補う高齢者の存在が示され、コロナ禍のみならず加齢に伴う外出機会の減少がもたらす孤立感を軽減することが示唆された。

②中村桃美*・森下久美*・石橋智昭*「シルバー人材センター会員の認知症発症リスク」

・シルバー人材センターの会員291名に対し、認知症の発症リスク（4年後）が13～30%あるスコアに該当する会員が少なからず存在していることを明らかにした。今後は、認知機能低下に伴う安全就業対策の強化が求められる。

③森下久美*・中村桃美*・石橋智昭*「シルバー人材センターにおける就業の2年後のフレイル改善効果」

・シルバー人材センターでの就業は、フレイル状態の改善に一定の効果を与える可能性が示された。一方、就業の頻度が多いほど、効果が高まるわけではなかったことから、健康度に応じた適度な就業が重要であると考えられた。

④安順姫*・新野直明*・岩田明子*「うつ予防プログラムの実践状況及び参加回数と精神的健康状態との関係：ポジティブ心理学的介入の手法を取り入れて」

・本プログラムに取り入れたポジティブ心理学的介入の手法が、高齢者の精神的健康の増進に有益であることが示唆された。ただし、課題によっては説明や実践の仕方を改善するなど、さらなる検討が必要であると考えられる。

第81回日本公衆衛生学会総会（2022/10/7-9：山梨県、オンラインと対面のハイブリッド開催）

①佐々木晶世*・青砥恵美・叶谷由佳「訪問看護師が在宅ホスピス入居者へ実施するアセスメント～看護記録の分析より～」

・新たな看取りの場として注目されている在宅ホスピス入居者に対し、訪問看護師は症状コントロールや内服管理、状態把握とともに今後の療養生活の見通しを立てるというアセスメントを実施し記録していた。

◆論文発表◆

澤岡詩野：

①植田拓也、倉岡正高、清野論、小林江里香、服部真治、澤岡詩野*ほか：「介護予防に資する『通いの場』の概念・類型および類型の活用方法の提案」日本公衆衛生雑誌,69（7），497-504（2022）.

②澤岡詩野*：「日本の都市高齢者の援助行動と被援助志向性；よこはまシニアボランティアポイント制度登録者における検討」厚生の指標,69（11），1-7，2022.

◆講演など◆

石橋智昭：

①「コロナ禍における高齢者の健康管理と安全就業」公益社団法人神奈川県シルバー人材センター連合会主催・令和４年度安全就業研修会（8/26、於：かながわ労働プラザ）

②「シルバー人材センター事業に役立つ老年学のススメ」公益社団法人茨城県シルバー人材センター連合会・令和４年度役職員研修会（9/26、於：セキショーウェルビーイング福祉プラザ）

澤岡詩野：

①「1年後をイメージしながら改めて『居場所』の意味を考える」横浜市神奈川区片倉三枚地域ケアプラザ主催サロン連絡会（6/3、於：片倉三枚地域ケアプラザ）

②「今だから求められる自治会町内会の役割とは？地域のすそのを拡げるヒントをコロナ禍から探る」藤沢市六会地区令和４年度自治会加入推進強調月間講演会（6/11、於：六会市民センター）

③「オンラインという『タネ』が拡げる可能性とは？」東京都の介護予防・フレイル予防推進支援センター研修会（6/28、於：新宿）

④横浜市青葉区さつきが丘地域チームオレンジ第2回ミーティングでファシリテーター（6/30、於：さつきが丘地域ケアプラザ）

⑤「地域包括ケアシステム強化に向けた生活支援コーディネーターへの支援とは？」日本老年社会科学会第64回大会自主企画フォーラム（7/2、於：桜美林大学）

⑥「少し先を見据え、活動をさらに魅力的なものにしていく為のヒントを探る」横浜市青葉区社会福祉協議会主催ボランティア・市民活動分科会（7/4、於：青葉区社会福祉協議会）

⑦「コロナ禍をヒントに1年後の豊かさを考える～地域の伴走者だからできることとは？」社会福祉協議会関東ブロック市町村社協職員向け研修会（7/7、於：幕張）

⑧「あなたにとっての“つながり”、あなたが“つながり”を紡ぐ意味とは？」横浜市神奈川区反町地域ケアプラザ主催講座（7/12、於：反町地域ケアプラザ）

⑨「JAPAN'S GOAL OF WELL-BEING AS AN AGING DEVELOPED COUNTRY?」EU-Japan online conference on Virtual Coaches for Smart Aging 第2セッション（7/14、ウェビナー）

⑩「『身近で』できることの活かし方」横浜市港北区社会福祉協議会主催「ボランティアをやってみようと思ったけれど…私の身近でできること」講座（7/22、於：港北区社会福祉協議会）

⑪「今だから求められる『地域』の姿とは？」さいたま市見沼区春岡地区社協主催第５次地域福祉行動計画策定委員会（7/27、於：春岡地区社協）

⑫「『なじんだつながり』をチカラに」横浜市瀬谷区中屋敷地域ケアプラザ主催サロン連絡会（7/29、於：中屋敷地域ケアプラザ）

⑬「数年後を想いうかべて…『やってみよう』をカタチにするには？」横浜市緑区役所ICTサポーター養成講座（7/30、於：緑区役所）

⑭「より良い人間関係を築くために」横浜市地域ケアプラザ分科会第二層生活支援コーディネーター研究会（8/1、於：日本丸訓練センター）

⑮「ゆるりとつながる“かおなじみ”」横浜市栄区なかの地域ケアプラザ主催生活支援サポーター養成講座（8/18、於：なかの地域ケアプラザ）

⑯「さらに魅力的な活動にしていくために ～コロナ禍からヒントを探る～」横浜市泉区いずみ中央サロン交流会（8/29、於：いずみ中央地域ケアプラザ）

⑰「改めて考える身近な地域に『場』がある意味」横浜市健康福祉局主催令和4年度通いの場・つどいの場・居場所講演会（8/31、オンライン）

⑱「豊かさとは社会とつながる手段を増やこと～ICTを『つかいわける』とは～」東京都中野区なかの生涯学習大学講座（9/7、於：なかのZEROホール）

⑲「マンションが『ゆるやかにつながる』タネをまこう！」岡山県岡山市主催「マンション暮らしのプラットホーム」研修（9/11、オンライン）

⑳「保健師・看護師が『通いの場』に関わる意味とは？」横浜市健康福祉局主催令和4年度元気づくりステーション連絡会（9/12、21、30、オンライン）

㉑「中川地区の見守りを考える～地域に『顔見知り』のタネをまくには？～」横浜市都筑区中川地域　地域会議（9/17、於：中川地域ケアプラザ）

㉒「『なじんだ誰か』は豊かさのチカラ」東京都町田市のまちだ市民大学人間関係学講座（9/18、於：中央図書館）

㉓「コロナ禍に地域と『歩む』～生活支援コーディネーターとして戦略的に○○する～」横浜市磯子区・栄区・中区生活支援コーディネーター向け勉強会（9/29、於：栄区役所）

◆寄稿・取材記事ほか◆

澤岡詩野：

「新型コロナウイルス流行と交流手段としてのインターネットの活用；都市部の企業退職者へのインタビューから―」老年医学，vol.60，№8（2022.8）特集 ポストコロナ時代に向けた高齢者の孤立対策～予防から支援まで～

上原桃美：

「生きがい就業を支える研究の軌跡と今後の展望」日本老年社会科学会ECRネットワークのECRコラム（9月）

森義博：

①㈱セールス手帖社保険 FPS 研究所「LA 情報」；「『想定寿命』は短すぎないか」（6月）、「一段と進んだ少子化―2021年の人口動態統計より」（7月）、「日本の人口の将来」（8月）、「これからの老後資金準備－【1】必要老後資金額（9月）、【2】税制優遇のある制度（10月）」

②「人生の真の長さと老後資金」老年社会科学，vol.44-3（論壇）（10月）

Dia Information

◆受賞など◆

【優秀論文賞受賞】当財団の安順姫研究員が、日本保健福祉学会の今年度の優秀論文賞に選ばれました。論文は「地域在住高齢者におけるポジティブ心理学的介入を取り入れたうつ予防プログラムの効果」です。概要につきましては、日本保健福祉学会のホームページ（https://www.jstage.jst.go.jp/article/hwelfare/28/1/28_1/_article/-char/ja）をご参照ください。

◆その他◆

【Diaレポート】当財団の 2021年度の研究・活動実績、組織、財務状況等をご報告する「Diaレポート2021」を7月に発行し、財団ホームページにも公開

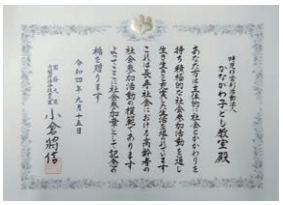
【ダイヤル更新】「社会老年学文献データベース（*DiaL*）」の第41回更新（新規登録354件）を完了（6/1）。登録論文総数は13,333件

＜お知らせ＞

内閣府の広報・啓発活動「エイジレス・ライフ実践事例及び社会参加活動事例」（※ 1）の本年度の選考結果（※ 2）が９月９日に公表され、当財団とゆかりの深い「特定非営利活動法人かながわ子ども教室」が、社会参加活動事例に選出されました。

当団体は、シニア世代が知識と経験を生かし「理科好きの子どもを育てる」「子どもの健全な人格形成に寄与する」ことを目的として 2004 年に発足し、当初はコミュニティーセンター等で活動していましたが、その後小学校の正規授業・理科クラブ、地区センター、児童相談所、放課後キッズクラブ、学童保育等でも教室を開催するようになり、現在は小学生を対象に、「科学」21 教室、「暮らし」４教室を運営しています。さらに、川崎市主催の「青少年フェスティバル」、厚生労働省等主催の「ねんりんピック」等、活動範囲を拡げています。

当団体は 2015 年度にも選考されましたが、コロナ禍にオンライン教室に積極的に取り組む等、創意工夫により活動を維持・発展させている点が高く評価されました。



「社会参加章」と「記念の桶」

内閣府に代わり、当財団より授与
（左が小島啓三郎理事長）

※１ 年齢にとらわれず自らの責任と能力により自由で生き生きとした生活を送っている高齢者（エイジレス・ライフ実践事例）や地域で社会参加活動を積極的に行っている高齢者のグループ等（社会参加活動事例）を広く紹介することにより、高齢者やこれから高齢期を迎える国民の参考としてもらうことがねらい。

※２ 都道府県・政令指定都市・中核市及び高齢者関連団体から推薦された候補から、内閣府内の選考委員会において、エイジレス・ライフ実践事例55名（推薦82名）、社会参加活動事例40団体（推薦52団体）が選出されました。

発行者　公益財団法人 ダイヤ高齢社会研究財団
〒160-0022
東京都新宿区新宿 1-34-5 VERDE VISTA 新宿御苑 3F
TEL：03-5919-1631　FAX：03-5919-1641
E-mail：info@dia.or.jp　https://dia.or.jp

編集人　中島　保

製　作　橋本確文堂（三菱製紙ホワイトニュー V マット）

発　行　2022.10.25 ／ No.108